

令和6(2024)年度公益財団法人鳥取童謡・おもちゃ館事業計画書

基本方針

私たちの財団は、2024年4月からの5年間の指定管理者として、再び県と鳥取市から県立童謡館と市立鳥取世界おもちゃ館の管理運営を任されました。平成7年7月7日の両館の開館以来の成果と経験を活かし、わらべ館が引き続き利用者に愛されるよう次の5年間も全力で取り組みます。あわせて、全国唯一の童謡とおもちゃのミュージアムとして、特色ある地域文化の発展に努め、皆さまからの期待に応えていきたいと考えております。

私たちは、教育的価値の高い展示の提供、地域社会との連携強化、利用者にとって魅力ある文化体験の創出に向け、具体的な計画を進めています。持続可能な運営を目指し、デジタル化の取り組みも進めながら、より多くの人々にわらべ館の魅力を伝えていきます。この目標達成には、スタッフ、利用者、地域社会の方々の一層の理解と協力が不可欠です。

私たちは、童謡とおもちゃの文化を通じて、子どもたちの想像と創造力を育む場を提供し続けます。利用者と共に、記憶に残るわらべ館を創造し、次世代に価値ある文化的財産を残していきたいと考えています。28年間の豊かな管理実績を礎に、わらべ館がこれからも文化の灯を高く掲げ続けられるよう、私たちは全力を尽くして参ります。

実施事業（総事業費 186,768 千円）

法人の目的を達成するため、指定管理者としてわらべ館の管理運営を行うとともに、次の事業を実施します。

1. 童謡唱歌に関する事業（公益目的事業 1 事業費 89,282 千円）

(1) 童謡唱歌体験事業

童謡唱歌に親しむ機会を提供するため、実際に童謡唱歌を歌ったり聴いたりすることの出来る体験活動を実施します。定期イベントとして唱歌教室を開催するほか、希望する団体や施設を募り、県内外の各地に出向いてのコンサートを実施するなどして、童謡唱歌の普及と愛好者人口の拡大に努めます。家庭でも唱歌にも親しんでいただくことを目的として、わらべ館のオリジナル唱歌集を販売します。基金事業として、県立童謡館のマスコットキャラクター夢兎（ゆめと）の着ぐるみ新調を計画しています。

(2) 調査研究、資料収集事業

「童謡・唱歌のふるさと鳥取」の拠点施設として、日本の音楽教育の発展に大きな役割を果たした鳥取県出身の三人の音楽家、岡野貞一・田村虎蔵・永井幸次の業績を顕彰し、関連資料の収集を行います。また併せて、本県ゆかりの音楽家や童謡全般に係る資料収集を行い、専門員による調査研究を進めます。

(3) 展示事業

岡野貞一ら鳥取県出身の音楽家の業績を顕彰するとともに、童謡唱歌に対する興味関心を広く一般に喚起するため、常設展のほかテーマを定めた企画展を童謡館で開催します。展示には専門員による調査研究、資料収集の成果を反映し、わらべ館の入館料のみで広く一般に公開します。また、今年度は永井幸次生誕 150 周年記念事業（特別展、講演・コンサートなど）を鳥取県からの受託事業として実施する予定です。

2. おもちゃに関する事業（公益目的事業 2 事業費 92,004 千円）

(1) おもちゃ文化体験事業

おもちゃに親しみ、おもちゃ文化に触れる機会を提供するため、工作や遊びなどの体験型事業を実施します。鳥取世界おもちゃ館を拠点として、おもちゃを使った工作や遊びの体験活動を提供するほか、壊れたおもちゃの修理やリサイクルおもちゃのワークショップなど様々なアプローチにより、楽しみながら学べる環境の実現を目指します。おもちゃづくり体験で販売する工作キットやその他材料代等の徴収に際しては、低廉な価格に設定し、多くの方に参加していただけるよう工夫します。また、手軽に遊べる日本の伝統玩具を紹介するため、こまの販売を行います。基金事業として、鳥取世界おもちゃ館のマスコットキャラクターロビットの着ぐるみ新調を計画しています。

(2) 調査研究、資料収集事業

鳥取世界おもちゃ館の展示の充実を図るため、鳥取県の郷土玩具や資料的価値のあるおもちゃを収集するとともに、専門員による調査研究を行います。県東部だけでなく近隣のおもちゃ作家とも連携しながら、地域性のある特徴的なおもちゃの収集に力を入れます。

(3) 展示事業

「'89 鳥取・世界おもちゃ博覧会」を顕彰するとともに、当時の収集資料を活用するため財団が新たに収集した資料も交えて、鳥取世界おもちゃ館において常設展やテーマを定めた企画展を開催します。展示には専門員による調査研究、資料収集の成果を反映し、わらべ館の入館料のみで広く一般に公開します。

3. 法人管理事業（管理事業 事業費 9,620 千円）

公益法人として関係諸法令に則り、透明性のある法人運営を行うとともに、人材育成に力を入れ職員の知識、技量の向上を図ります。